

西尾

NISHIO

西尾地域は、西三河地域の中央部を南北に流れる矢作川以南に広がる沖積層の平坦な地域と東部のなだらかな丘陵地からなり、南は風光明媚な三河湾に面し、2011年4月に旧西尾市・幡豆郡が合併し現在の西尾市となりました。



稲荷山の茶園

この地域の歴史は古く、東部丘陵地には古墳群が点在し、また松平家6万石の城下町として栄え、今でも街のそこかしこにその面影を残し、三河の小京都と呼ばれています。



三河の小京都



大規模な麦生産

農業は、温暖な気候と矢作川の恵みを受け、四季折々に多種多様な農産物ができ、古くから農業生産の盛んな地域です。

特に、抹茶の原料となるてん茶の生産は全国的にも有名なほか、米・麦・大豆作は、県内を代表する産地として発展を遂げています。

さらに、全国トップクラスの生産を誇るカーネーションなどの花きの生産は、花の王国あいちを支える主要な産地となっています。

三河湾では、小型底びき網漁業やのり養殖業が盛んに営まれ、あさりを始めとした貝類やくるまえばい等が多く漁獲されています。

また、本県のうなぎ養殖業は、鹿児島県に次ぎ全国2位の生産量を誇り、中でも西尾市一色地区は、本県うなぎ養殖業の中心地となっています。



水産物のせり風景